

## 当院における透析患者の現況

—社会復帰について—

厚生連高岡病院看護科 高原奈津子 増田 幸子  
城 礼子 網 典子

## はじめに

私達透析医療に携わる者の使命は、総ての長期透析患者に対して完全に社会復帰させることにある。そこで社会復帰時の種々の問題を把握し、今後の援助活動に役立てたいと思ひ当院の透析患者の生活実態の一部を調査したので報告する。

## 1. 調査の方法

期間 昭和59年12月1日から60年1月5日

内容 ①職種 ②仕事量 ③疲労感

方法 面接法で行う

当院透析患者 男子50人 女子43人

透析歴 平均男子6.6年 女子6.4年

平均年齢 男子40歳 女子51歳

患者を地域別で見ると、高岡48、氷見19人、小杉7人、新湊6人、福光4人、福岡3人、小矢部、砺波、庄川、城端、大門等には各々1人で主に呉西に多く、呉東では黒部に1人である。

## 2. 結果

表1の職種別では、男子50人中会社員と自営業がそれぞれ9人、公務員と農業が各々5

表1 職種 N=93

職種	人数	男	女	計
会社員	9	3	12	
公務員	5	1	6	
自営業	9	2	11	
農業	5	0	5	
主婦	0	32	32	
無職	22	5	27	
合計	50	43	93	

人、無職者は22人である。女子は、43人中主婦が32人と圧倒的に多く、職業に就いて居る人は6人で無職は5人である。

表2 就業者年齢別区分 N=72

年齢	男 (42)		女 (30)		
	就業	無職	就業		無職
			職場	主婦	
20~29才	0	1	2	0	0
30~39才	7	4	1	5	0
40~49才	9	3	3	7	2
50~59才	9	9	0	9	1
合計	25	17	6	21	3
	59%	41%	90%		10%

表2は、就業可能と考えられる20歳から59歳迄の人の就業率をみると、男子では就業者25人で59%を示し、無職者は17人で41%である。女子では職場のある人と無職者を含めると27人で90%、但し主婦を除くと就業率は22%である。

表3 無職の理由と年代区分 N=17

理由	年代			
	20	30	40	50
①就業不可能	1	0	2	5
②特に働かずとも良い	0	0	0	4
③体に合った職が無い	0	1	1	0
④働く意欲がない	0	3	0	0

表3は、就業可能年代の男子無職者17人の内訳である。

①は、長期入院や、何らかの事故で手指、腕の切断等の人である。

②は、経済的に恵まれた環境の人で、特に働かなくても生活を営むことの出来る人である。

③は、一人はトラックの運転手、一人は東京で就職していた人で、それぞれ何度も転職しており現在求職中である。

④は、年齢的にも身体的にも労働可能の人で

あるが、年金額より賃金が少ない為に働く意欲を失い働いていない状態である。

表4 透析歴と透析回数について

(男性就業者25名について)

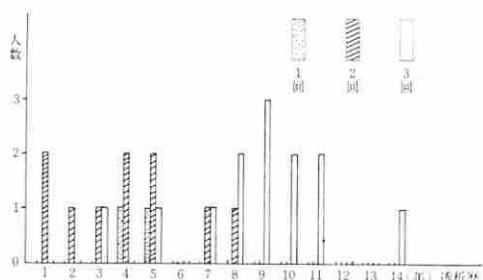


表4は、就業男子25人の透析歴と透析回数の関係で、透析歴が長くなるにつれ透析回数の多い事が伺われる。

図1から図3迄は、就業男子の職業に就いて透析前と透析後を比較したものである。

図1 昼間透析 N=11

就業男子 (20才~59才) の職業と透析回数

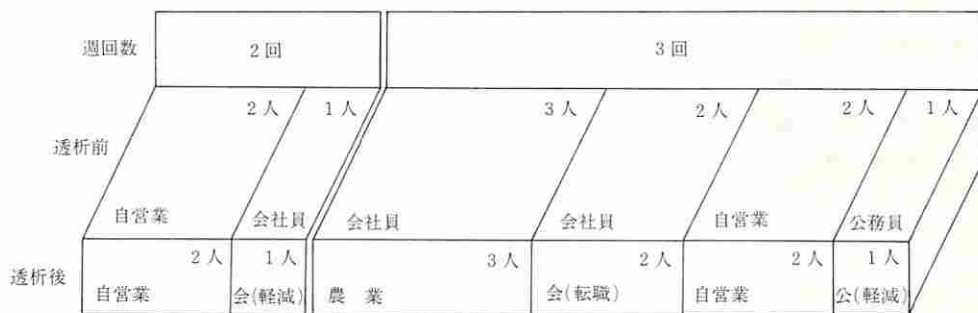
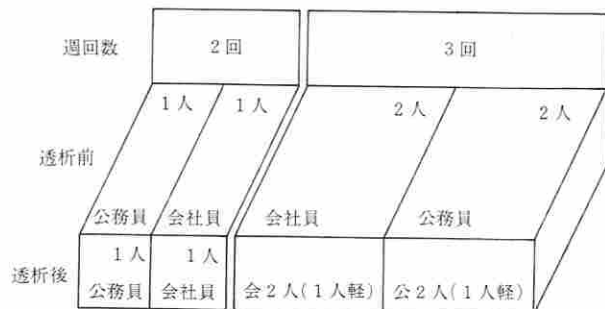


図2 夜間透析 N=6



各図の上段は、週の透析回数を示し下段の( )内は、業務内容の変化である。

図1は、昼間透析の人で自営業の人は自分で仕事量を加減出来る為、転職はしていませんが、週2回になると労務の軽減をしている事がわかる。

図3は、昼間と、夜間の透析を組合わせている人である。自営業に於いては、自分で仕事量を加減出来るので問題はない。会社員3人は、昼間透析がある為大きな会社から規模の小さな会社へと転職している。公務員の人は、昼間透析をする為に毎週日曜日出勤とし振替代休を利用し透析を行っている。

これらをまとめてみると、会社員12人の内4人のみ同一職場で働いている。しかしその内2人は労務の軽減、5人は転職し残り3人は職場を退りぞいている。しかし公務員5人は同一職場で働いているが内2人は労務の軽

図3 昼・夜間透析 N = 8

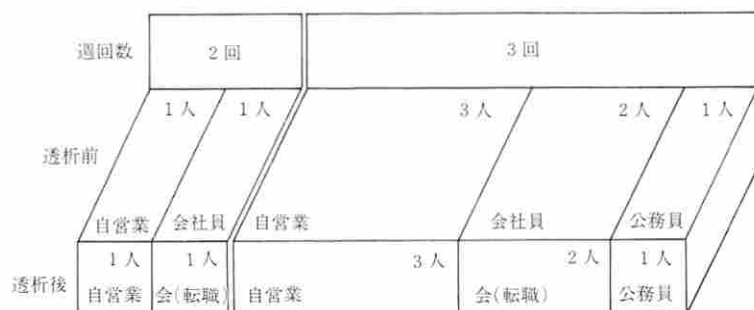


図4 導入前の仕事を100とした現在の仕事量

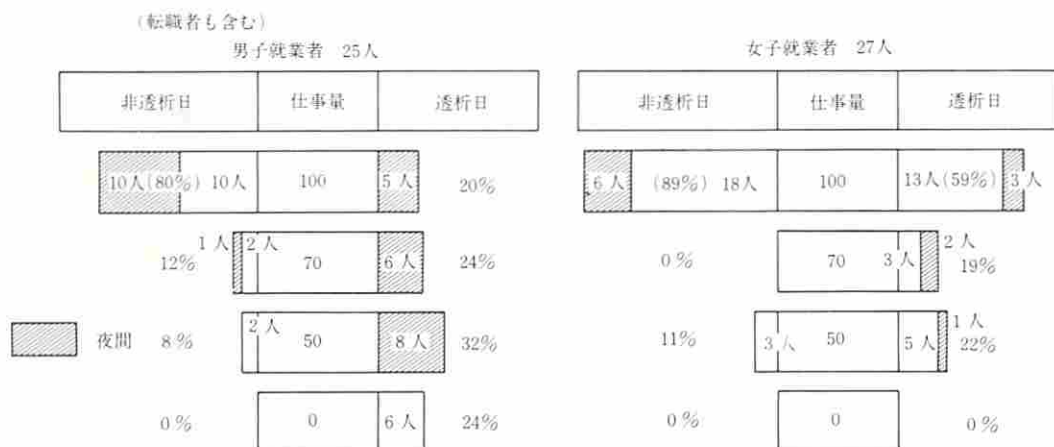
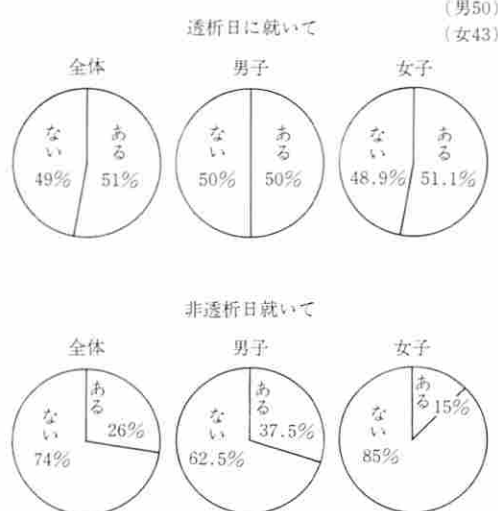


図5 透析日と非透析日の疲労感に就いて N=93



減をしている。

図4は、透析前の仕事を100として現在の仕事を自己評価したものである。但し男子の場合は転職者も含まれている。

尚斜線の部分は夜間透析の人である。

男子の場合非透析日は、80%の人が従来と同様に就業しているが透析日では、7割以上仕事の出来る人が44%を示している。透析日に仕事の出来る職種としては、自営業の人が9人、公務員が3人である。また透析日の仕事量が50%以下の14人の職種は会社員が多い。女子では非透析日に89%の人が就業している。但し24人中18人が主婦である。

図5は、透析日と非透析日の疲労感に就いてである。

透析日に疲労感が「ある」人と「ない」人は、図の如く約半数に分かれ男女の差はみられない。又非透析日では、男子で「ない」と答えた人が62.5%、女子は85%である。「ある」と答えた男子37.5%、女子15%で男子の方が疲労感を多く訴えている。

就業との関係を見ると、男女共それぞれ就業者に多く疲労感があることがわかった。

#### 4. 昼透析の為就業時間の短縮等が分かった。

図1から図3迄は、自分で働かねばならないと自覚する人は夜間透析を望み、日常生活面でも規則正しく、自己管理もよく、検査結果も良好な人が多い。

職種別では、自営業の人は仕事量を加減出来るので就業を続けられる。会社員では、大きな会社の人には透析回数が多くなると様々な制限により、就業を続けて行く難しさがある。

### 3. 考察とまとめ

無職者17人中20才から40才代の問題点が4つ上げられる。

1. 身体障害者の為、健康者よりも職場へ迷惑を掛ることへの遠慮がある。
2. 家庭に経済的な余裕がある。
3. 家族が本人に対して必要以上甘やかす。

無職の男子は、透析日、非透析日の疲労感は就業者に比べ多い。

腎移植をしない限り永続しなければならない治療であるが故に、1回の透析時間が5時間から6時間、週に2回から3回の透析は大きな障害となり、働く意欲に燃えながらも条件が合わず転職を余儀なくされているケースもある。

この問題を乗り越えるには、暖かい家族の協力を第一とし、社会的には、職場の理解と援助が必要である。それと同時に、自らの精神力が基盤となってこそ社会復帰の諸問題が解決すると思われる。

その為に私達は、患者一人一人の良き相談相手や理解者となり、よりよき援助を目指し努力をして行きたいと思います。

### 参 考 文 献

- 透析患者の心理と精神症状 春木繁一著  
人工透析研究会誌 15巻1号 1982  
" " 16巻3号 1983  
人工透析医療の今後の課題